

王子動物園ワークショップ 動物園HP意見投稿 の報告

王子動物園

①王子動物園ワークショップ

| | 日時 | 内容 |
|-----|-------------------|---|
| 第1回 | 5月28日（日）午前10時～12時 | リニューアルについて（説明） 動物園への思い（いいところ・悪いところ・改善点）の共有 |
| 第2回 | 6月11日（日）午前10時～12時 | 基本計画策定指導者の講演 （大阪芸術大学 若生教授） テーマ別意見交換 |
| 第3回 | 6月25日（日）午前10時～12時 | 第2回の深掘り 基本計画で大切にしてほしい考え方 |
| 第4回 | 7月23日（日）午前10時～12時 | 動物園としてのワークショップの受けとめ（まとめ） これからのファンと動物園の関わり方 |

※応募期間 4月21日（金）～5月12日（金）まで受付 定員35名

※会場はすべて動物園ホール

第1回ワークショップ

動物園への思い(いいところ・悪いところ・改善点)の共有

共有された提案等の一例

(1) 動物について

- ・動物展示については獣舎の環境をはじめ、多くの問題点と改善提案
- ・個々の種については、展示方法について多くの提案
- ・飼育員との対話する機会が望まれる

(2) 施設について

- ・リニューアルに際し、動物移動についての不安
- ・立地条件について、周辺市街地との連携などが必要
- ・敷地内は地形に起因した坂道や階段が多いため移動の負担軽減が望まれる
- ・資料館・図書館は、内容は充実しているが、利用の機会が少ないため、活性策が必要
- ・休憩施設は、施設不足であり、夏場の暑さ対策を中心とした改善が期待
- ・遊園地は幼児にとって必要な施設との認識があり、「観覧車」は王子動物園のシンボル
- ・遊具は、「動物」との関連性や「象の滑り台」のような無料のもの

(3) 来園者サービスについて

- ・動物園を楽しむ工夫などについて多数提案
- ・チケット売り場の一時的混雑に課題
- ・物販・グッズは、オリジナルグッズへの期待
- ・看板・案内については、設置物の見やすさやUD・IT・SDGsへの対応が提案
- ・メディアを活用した対応やスマホやカメラの発展に対応する提案

第2・3回ワークショップ

テーマ別意見交換 ～基本計画で大切にしてほしい考え方～

■議論したテーマ

(1) 来園者の満足感や王子動物園のブランドイメージを高めるために・・・

- ① エントランス・チケット売り場など来園者を迎える施設への提案
- ② 動物園の売店や販売グッズへの提案
- ③ レストラン・飲食関係への提案 など

(2) もっと楽しく快適に過ごせる王子動物園としていくために・・・

- ④ 園路・広場や「みどり」への提案
- ⑤ トイレやベンチなど休憩施設への提案 など

(3) もっと楽しく学ぶことができる王子動物園としていくために・・・

- ⑥ 動物科学資料館・図書室など学習施設への提案
- ⑦ 動物展示を楽しく見るための提案 など

(4) もっと広く・深く王子動物園を知り、関わっていただくために

- ⑧ 動物園の広報についての提案・(看板、ホームページ、SNS、紙媒体など)
- ⑨ あなたが動物園で活動したいテーマ(市民と動物園の協働) など

(5) 動物園にふさわしいレクリエーションとは・・・

- ⑩ 動物や自然を感じやすい遊び場に必要なものやコトへの提案 など

(6) その他

- ⑪ その他の提案

第2・3回ワークショップ

テーマ別意見交換 ～基本計画で大切にしてほしい考え方～

■参加者からの提案まとめ

■動物のための環境整備についての提案

- 動物ファーストで考える「飼育より動物にとっての環境優先」
- 動物がいきいきとその動物らしくしてほしい
- ふれあいは動物主体で
- 動物福祉を学ぶ・考える

→まもる ～種の保存など生物多様性保全に貢献する動物園

■学びのための機能向上についての提案

- 学びの機会を増やす
- 生命の大切さを考えてほしい 王子動物園内だけではなく
- 動物に配慮できる人を育てる 学ぶから考える人へ
- ◆動物の見せ方の工夫について
 - 見て、きいて、触れて、感じる展示の博物館
 - 混合展示を見たい
 - 人を紹介するような表現で動物を紹介してほしい

◆王子動物園での学びを充実することについて

- 園路及び園路周辺に子どもたちが楽しめる工夫、学べる工夫を
- 種の解説を誰にでもわかりやすくする工夫を
- 図書室をもっと使いやすくする
- 可能な限り、飼育の様子を発信してほしい
- 目玉となる動物講座の実施
- 動物たちのエサを作る・学ぶ

→まなぶ ～動物を通して自然や環境への扉をひらく教育の推進

■調査研究と人材育成についての提案

- 動物に配慮できる人を育てる 学ぶから考える人へ
- 今までの研究の成果を積極的に発表する

→ふかめる ～希少動物の保全や動物福祉の向上に資する調査・研究の推進

■もっと便利で快適に楽しめるための環境整備に関する提案

- ワクワク感の演出(特に駐車場からの動線やエントランス等)
- 動物園全体がレクリエーションを楽しむ場
- 公園、多様な利用を踏まえ、日常生活の中での「癒し」の場とする
- いろんな角度からの関り、楽しみ方ができる
- 緑豊かな環境づくりを

◆園内での快適な過ごし方について

- スムーズに入園できる工夫(ゲートは複数)
- 来園者にとって快適で、動物にとっても優しい植物の選択を
- 高低差を克服するため方法(例:エレベータ)
- 園路にはデザイン性のあるベンチなど座れる場所を点在させる
- ミストが出る日よけなど気候への工夫を
- 防犯対策や来場者マナー向上の取り組みを
- レストランへの多様なニーズを反映したい

◆園内での楽しみ方について

- 高低差を活用した自然豊かな園路
- 遊園地はTHE神戸なものを残す
- ピクニックシート等を広げられる空間を
- スマホアプリによる観覧補助
- フオトスポットの設定

→たのしむ ～誰もが安全して楽しめる憩いの場の創出

■市民と係わりについての提案

- ボランティアなど市民が動物園に係わるきっかけづくり
- 動物に関わる仕事の窓口になる
- 企業と動物園のタイアップ提案
- 市民がアクセスしやすい窓口を作る(SNS、メール、電話など)
- 個人サポーターの拡大
- 思わず行きたくなる情報発信が必要
- 多様で王子色のあるグッズが必要

→はぐくむ ～市民・地域・来園者と共に歩み行動する動物園

第4回ワークショップ

動物園としてのワークショップの受けとめ(まとめ)

1. まもる

種の保存など生物多様性保全に貢献する動物園

≪計画への捉え方≫

→ 動物福祉や種保存に必要な環境整備を講じていく必要がある。

○基本計画中に記載していきたい内容(例)

- (公社)日本動物園水族館協会の「飼育ガイドライン」の基準にあった獣舎整備
- 環境エンリッチメントやハズバンドリートレーニングがしやすい設備の整備
- 動物本来の生息環境を再現した飼育環境の整備
- 獣医療設備等の充実や繁殖技術の向上
- 市県内の希少動物種の導入により、生物多様性保全教育を推進
- 生物多様性保全の基盤整備のための動物収集計画(コレクションプラン)

適正施設ガイドラインの基準にあった獣舎の整備

ゾウ、キリンなど25種が飼育ガイドラインの対象

| 動物種 | 飼育面積 | | その他 |
|-------|-----------|----------------------------|-------------|
| | 運動場 | 寝室 | |
| アジアゾウ | 1頭：500㎡以上 | 雄1頭又は母子：56㎡以上 雌1頭：37㎡以上 | プール：100㎡以上等 |
| キリン | 1200㎡以上 | 1頭：25㎡以上 | 天井高：6.5m以上等 |

環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングがしやすい設備の整備

調査研究やガイドをしやすい設備の整備

温度管理が重要な動物については室内展示室を設置する等飼育環境の充実に努める

生物多様性保全の基盤整備に向けて

現状（R5年5月末時点）

123種 712点

| | 種数 |
|-----|----|
| 哺乳類 | 56 |
| 鳥類 | 49 |
| は虫類 | 18 |

生物多様性保全に貢献し、将来にわたり持続可能な飼育展示を実現していく

基本構想で示したコレクションプランの考え方をもとに分類（一定期間ごとに見直し）

| | | |
|------|----------------------------------|----------|
| 最優先種 | 種保存に貢献するため積極的に繁殖を推進 | 8種程度 |
| 優先種 | （公社）日本動物園水族館協会が行う繁殖計画に準拠した計画的な繁殖 | 15種程度 |
| 維持種 | 展示施設内で適正数を維持するための繁殖 | 50～60種程度 |
| 調整種 | 繁殖を行わない。もしくは譲渡を促進 | 50～60種程度 |

「繁殖方針に基づく優先度が高い動物種」については、繁殖に取り組めるような施設の充実に努める。

2. まなぶ

動物を通して自然や環境への扉をひらく教育の推進

《計画への捉え方》

→ 獣舎等の整備において、来園者が動物の生態や環境保全などを学習できる充実した機能を整備していく必要がある。

○基本計画中に記載していきたい内容 (例)

- ・メッセージ性のある展示サインの充実
- ・歩きながら学べる工夫
- ・学習プログラムの充実
- ・動物科学資料館のリニューアル
- ・学校教育との連携強化
- ・六甲山等の希少動物の展示を通じ、身近な環境問題にも目を向けた教育の推進

生物多様性保全の重要性を学び・感じ・考える展示機能の強化



新たな獣舎配置・展示方法の導入 地理学的展示配列

生息地別のゾーン単位に分けたエリアを創出し、生息地域や気候風土との関係性を感覚的に伝えていく

生息環境再現型の展示

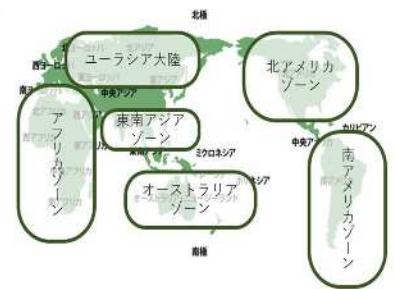
それぞれの生態にあった自然環境を整え、動物本来の行動を発現できる空間を創出していく

ストーリー性のある観覧ルート

世界の各地域に生息する動物を観覧しながら、動物の特長や生物多様性保全の重要性を体感できる観覧ルートやサインによる仕掛け

動物科学資料館機能の充実

最新のデジタル技術の導入や剥製・骨格標本の展示の充実などにより、学び・感じ・考える体験型学習機能を充実させ、気軽に休憩しながら図書を閲覧できるような空間などを創出



系統分類学的展示配列

- ・霊長類や偶蹄目、食肉目などに属する動物をその分類群ごとに展示
- ・野生動物が生息する生息環境についてはわかりにくい

3. ふかめる 希少動物の保全や動物福祉の向上に資する調査・研究の推進

《計画への捉え方》

→ 専門性の高い人材の育成や調査研究を推進できる機能を充実させていく必要がある。

○基本計画中に記載していきたい内容（例）

- ・ 専門性の高い大学等研究機関と連携した調査研究の推進
- ・ 大学や自然保護団体等の交流・研究成果の発表の場などに動物園を活用することによる次世代育成への貢献（動物科学資料館の更なる活用）

4. たのしむ 誰もが安全して楽しめる憩いの場の創出

《計画への捉え方》

→ 来園者が快適に楽しみながら観覧するための工夫、立地環境を活かした神戸らしさ・王子らしさの演出に努める必要がある。

○基本計画中に記載していきたい内容（例）

- ・ 現在の遊園地については、動物園の思い出や愛着に配慮しつつ、新たに子供たちが動物や自然をより身近に感じることができる安全で安心なレクリエーション機能を充実
- ・ 六甲山と調和した使いやすくワクワク感のあるゲート
- ・ 高低差を活かし楽しく学び安全に移動できる観覧通路
- ・ 休憩スポットでの異常高温対策等の充実
- ・ あたらしい駐車場へのアクセス性の向上

5. はぐくむ 市民・地域・来園者とともに行動する動物園

《計画への捉え方》

→ 市民ボランティア・サポーター、地域団体、企業などが動物園に積極的に関わることができる仕組みを市民とともに構築していく必要がある。

○基本計画中に記載していきたい内容（例）

- ・ファンと共に動物園を守り育てる仕組みづくり
- ・地域団体や企業とのコラボレーションによるイベントやグッズの開発（野生動物保全に向けた企業等との連携協力）

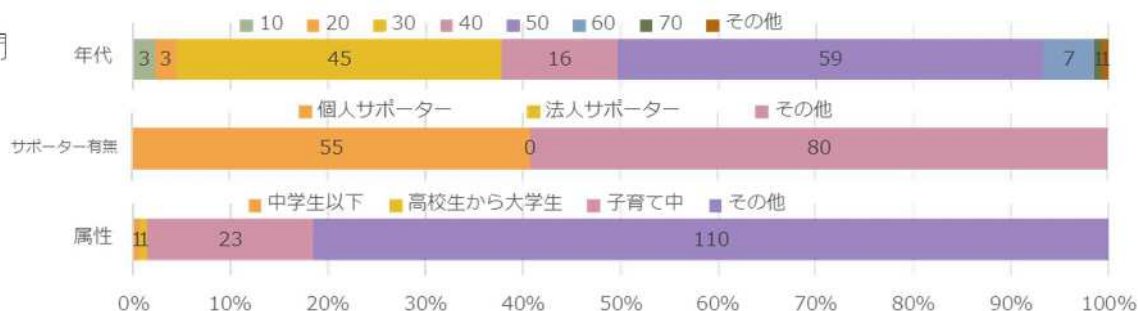
②動物園HP意見投稿

※公開期間 ; 4月21日(金)～6月26日(月)

※回答数 135件(同一回答者含む)

■設問

○属性に関する質問



○リニューアルに向けて気になる施設
(複数回答可)

| | | | |
|----------|----|-------------|----|
| 動物獣舎 | 26 | ゾウ舎 | 10 |
| エントランス | 5 | パンダ館 | 4 |
| 物販店 | 6 | 中型ネコ類 | 4 |
| 飲食店 | 13 | サル類舎 | 3 |
| 休憩施設・トイレ | 5 | クマ・ホッキョクグマ舎 | 3 |
| 園路・樹木 | 8 | 大型ネコ科 | 3 |
| 遊園地 | 15 | キリン舎 | 4 |
| 管理施設 | 1 | 草食動物(北園) | 2 |
| 動物科学資料館 | 2 | 鳥類 | 2 |
| 旧ハンター邸 | 3 | コアラ館 | 1 |
| 来園者サービス | 4 | ふれあい | 1 |

②動物園HP意見投稿

※公開期間 ; 4月21日(金)～6月26日(月)

※回答数 135件(同一回答者含む)

1. まもる

種の保存など生物多様性保全に貢献する動物園

○王子公園全体の再整備の中で動物園を拡大し、動物福祉動物ファーストを重視した再整備が望まれています。【一部抜粋】

| | |
|------|--|
| 整備方法 | 周辺施設からの騒音など環境圧が心配 再整備に伴う動物の移動時のストレス対策など動物ファーストを |
| 動物福祉 | 動物福祉・環境エンリッチメントの観点から展示を行う (混合飼育・生息地別展示・習性に配慮した生態的環境整備など) 動物病院の充実 来園者マナーの順守への配慮が必要 園内施設・設備からの騒音・振動対策 バックヤードの充実 特にゾウの飼育環境の改善に対する意見が多数寄せられた。 (展示空間の拡大・水場の整備など) |
| 行動展示 | ガラス越し・檻越しでない行動展示の工夫 |
| 環境整備 | 日除けの設置等暑さ対策の充実 |

②動物園HP意見投稿

※公開期間 ; 4月21日(金)～6月26日(月)
※回答数 135件(同一回答者含む)

2. まなぶ

動物を通して自然や環境への扉をひらく教育の推進

○命の尊厳を体感し、人と動物の共生について学ぶこと、考えることのできる場としての整備とプログラムの提供が求められています。【一部抜粋】

| | |
|------------|---|
| 命、尊厳を学ぶ | 命の始まりから終わりまでを紹介する動画や剥製標本の展示などで命の尊厳を伝える動物の可愛い部分だけでなく負の側面を見せることも教育につながる |
| 掲示物・案内 | 掲示物は手作りや温かみのあるものとし、動物の生態、特徴、生息環境などの紹介園内で実施するイベントのリアルタイム情報を掲示しアナウンスするパンフレットに記載する情報のさらなる充実 |
| 体験する | 園長や飼育員だけが知る動物の情報や仕事内容などの体験学習 動物の生態や抜けた毛や歯、実物大の手形足形を自分のものと比べられるなどの展示 小さい子ども連れが楽しめる内容のクイズなどのイベント 動物とふれあうことで人との共生について考え体験する機会 |
| マナー教育 | 観覧時に大声を出さない、ごみを捨てない、撮影マナーなどの教育 |
| 動物科学資料館 | 建物、展示内容を全面的に更新する。テーマパーク化 |
| 環境問題への取り組み | コンポストを設置するなどSDGsを体感できる取り組み |

②動物園HP意見投稿

※公開期間 ; 4月21日(金)～6月26日(月)
※回答数 135件(同一回答者含む)

3. ふかめる

希少動物の保全や動物福祉の向上に資する調査・研究の推進

○新しい動物の繁殖・飼育の拡大とともに、動物福祉の観点を取り入れ、職員・動物それぞれにとって幸福な環境づくりが望まれています。【一部抜粋】

| | |
|-------------|--|
| 繁殖・飼育 | 繁殖に成功している動物の調査研究を続けながら、新しい種類の動物の繁殖・飼育に挑戦 明確なテーマを持った動物を飼育し他施設との差別化を図る |
| 人材・育成 | 動物園の安定した運営や充実した取り組み 動物の安全の為に、スタッフの増員や就業環境・待遇を改革、人材育成に力を入れる 動物ファーストを実践している外部の専門家をアドバイザーとして迎える |
| 人と動物が共生する環境 | 動物の健康管理などの面で大切な飼育員の信頼関係を築くことができる環境づくり 動物の繁殖、育成～終末期までを包括的にサポートできる体制づくり |
| 導入してほしい動物 | 多様な動物の導入を望む声がある。 |

②動物園HP意見投稿

※公開期間 ; 4月21日(金)～6月26日(月)
※回答数 135件(同一回答者含む)

4. たのしむ

誰もが安全して楽しめる憩いの場の創出

○動物園を快適で便利に楽しむための施設や設備などの環境づくりと誰もが安心して楽しめるサービスの向上が具体的な提案も含め求められています。【一部抜粋】

| | |
|--------|---|
| 飲食店 | 季節や天候を気にせず快適に過ごせる室内の飲食店、フードコート ご当地メニュー、動物をモチーフとした王子公園ならではのメニュー開発 誰もが楽しめるようにアルコール、アレルギーフリー食の提供 |
| 物販 | オリジナルグッズ、実際の動物をモデルにしたグッズ等の開発 神戸の地域性を活かしたデザイングッズ |
| 休憩スペース | 日陰で座れる場所、芝生でくつろげる空間などの休憩スペースの整備清潔で使いやすい トイレの改善(ベビーカー、荷物置き、ウォシュレットなど) |
| 移動・動線 | 歩きやすい舗装やルート誘導ができる園路 車椅子でも移動しやすいルートづくり、坂道の勾配をできるだけゆるやかに シニアカーの貸し出し、移動補助ボランティアの配置 |
| 遊園地 | 遊園地を存続させ、観覧車などの乗り物を中心に現在のレトロな雰囲気を残す こどもが安全、安心に遊べる空間や施設を配置 |
| ゲート | チケットをネットから事前購入できるようにする 市民が愛着を持っている現在のエントランスの雰囲気を守る 入り口ゲートの複数箇所化 北側にもゲートを設置 |
| 景観形成 | 桜などの植物の保存 今ある自然環境を将来に引き継ぐ |

②動物園HP意見投稿

※公開期間 ; 4月21日(金)～6月26日(月)
※回答数 135件(同一回答者含む)

5. はぐくむ

市民・地域・来園者とともに行動する動物園

○今ある王子動物園のすばらしさを将来へ引き継ぐこと、地域や動物園との密接なつながりづくりが求められています。【一部抜粋】

| | |
|----------|---|
| HP、SNS活用 | HP、SNSを活用して動物園の情報を公開 動物の個別の情報や実施するイベントのアナウンス |
| 集客・PR方法 | メディア露出を増やし、王子動物園にいる動物への関心や愛着を高める 旅行会社と連携し、ツアーに組み込むなど神戸の観光資源として確立 |
| サポーター | クラウドファンディングなどを利用し、ファンが直接応援できる仕組みづくり サポーター制度は継続し、内容の充実。(返礼品のプレミアム感) 寄付が種の保存に直接寄与するような仕組みをつくり、参加する意欲を育てる。 動物園の為に協力したいという気持ちに応えるために、動物園が本当に必要としている ものに対して寄付できるようにする。 樹木のオーナー制度。 |
| 地域との連携 | 周辺地域の飲食店や企業と連携して地域のつながりを生み出す(地元企業、灘五郷等) 地元の神社とのコラボレーション絵馬やお守りの開発。 動物園への親しみ、防災意識の向上どちらにも活かせるもの(防災グッズ等)を。 |